

**2004 年度 日本エイズ学会第 1 回理事会 議事録**

日 時：平成 16 年 5 月 14 日（金）午後 2 時～4 時

場 所：国立国際医療センター管理棟第二会議室

出席者：木村 哲，味澤 篤，岡本 尚，戸谷良造，橋本修二，原田信志，馬場昌範，堀 成美，山本直樹，以上 9 名

委任状提出者：青木 眞，池上千寿子，市川誠一，内海眞，岡 慎一，木原正博，五島真理為，新庄文明，速水正憲，満屋裕明，安岡 彰，吉崎和幸，上田重晴（監事），以上 13 名

オブザーバー出席者：三間屋純一（2004 年度学術集會会長），福田 博（日本学会事務センター），山本暖子（理事長秘書），以上 3 名

**議 題****（報告事項）**

## 1) 会員現況（報告者：事務局）

会員現況（昨年同期より 59 名増，団体を含む合計会員数：1546 名）の説明がなされた。

## 2) 2003 年度決算報告（報告者：安岡理事の代理，事務局）

2003 年度決算報告がなされた。収入では，会員増と広告収入増などにより決算額が予算額を上回り，支出では，学会抄録集の発送費の減などにより決算額が予算額を下回った。それにより，次年度繰越金が約 200 万円増となった。資産はいくつかの銀行に分けて預金されている。ECC 山口メモリアルエイズ研究奨励賞の特別会計は，奨励賞受賞が 1 人のために約 50 万円が次年度に繰り越された。決算が正確妥当である旨の監査証明書が提示された。以上により，2003 年度決算が承認された。

## 3) 日本エイズ学会誌発行状況（報告者：山本理事）

日本エイズ学会誌 6 巻（2004 年）について，発行状況と予定が報告された。1 号は初めて特集を掲載し，刊行された。2 号は 2003 年度学術集會のシンポジウムなどを掲載し，6 月に刊行予定である。3 号は特集などを掲載し，8 月に刊行予定である。編集委員として，本多三男氏から杉浦互氏に交代することが承認された。

## 4) 第 18 回日本エイズ学会学術集會（報告者：三間屋 2004 年度学術集會会長）

第 18 回日本エイズ学会学術集會の準備状況が報告された。会期は 2004 年 12 月 9 日（木）～11 日（土），会場は静岡市のグランシップである。準備のスケジュール，プログ

ラム委員会，特別講演・シンポジウムの日程などが報告された。関連学会の関係から，総会，理事会と評議員会は第 2 日目に開催される。

## 5) 第 19 回日本エイズ学会学術集會（報告者：原田 2005 年度学術集會会長）

第 19 回日本エイズ学会学術集會の準備状況が報告された。会期は 2005 年 12 月 1 日（木）～3 日（土），会場は熊本市の市民会館と国際交流会館である。学術集會の基本方針について意見交換がなされた。日本性感染症学会（近い時期に小倉市で開催予定）と合同シンポジウムを企画することが承認された。

## 6) 2004 年度エイズ研究奨励賞候補者の推薦依頼（報告者：木村理事長）

ECC 山口メモリアルエイズ研究奨励賞候補者の募集について，日本エイズ学会誌 6 巻 2 号に掲載することが報告された。理事・評議員に対して，過去の受賞者名と受賞課題の一覧を添えて候補者の推薦依頼状を郵送することとなった。同選考委員会に対して，候補者の推薦依頼についての積極的周知などの検討を依頼することとなった。

## 7) その他

## 1. 日本エイズ学会ホームページ

味澤理事から，日本エイズ学会ホームページについて，日本エイズ学会誌編集委員会と協議しながら進めていることが報告された。国会図書館から日本エイズ学会ホームページを保存したいという依頼があり，同依頼が承認された。

第 18 回日本エイズ学会学術集會の特別講演などの記録をホームページに掲載することなどについて，意見交換がなされた。学術集會会長と理事会が協議しながら進めることとなった。

**（協議事項）**

## 1) 理事選挙について

任期が 2004 年度末までの理事（約半数）の選挙について，前回と同様に，8～9 月に会員名簿用の調査票の発送・回収，12 月に投票用紙の発送・回収することが承認された。会員名簿用の調査票では住所などの名簿への掲載許可も調査する。選挙管理委員会は，被選挙権のない改選理事の中から，味澤 篤氏を委員長に，木村 哲氏と山本直樹氏を委員に指名した。

## 2) 第 20 回日本エイズ学会会長候補の選出について

第 20 回（2006 年）日本エイズ学会学術集會会長候補の

選出について審議された。これまでの臨床・基礎・社会の分野での開催状況と開催場所が考慮され、候補者案が定められた。候補者については、木村理事長が候補者案を確認の上で、次回の理事会で決定することとなった。

3) 「日本エイズ学会アルトマーク賞(仮称)」の検討について

株式会社日本アルトマークから「日本エイズ学会アルトマーク賞(仮称)」の依頼があり、理事会で名称や選考規程

などを検討することとなった。意見としては、ECC 山口メモリアル研究奨励賞とは異なる趣旨とすること、本年度から当面5年間に毎年1名を表彰すること(副賞100万円)、日本エイズ学会に顕著な功績のあった者(40歳以上)を対象とすること、理事長を選考委員長とし理事会で選考することなどが出された。

以上

## 文献紹介

AIDS Education and Prevention, 16 (1), v-vii, 2004

©2004 The Guilford Press

### HIV Prevention for Asian and Pacific Islander Men Who Have Sex with Men : Identifying Needs for the Asia Pacific Region

アジア・太平洋地域の MSM における HIV 感染予防— そのニーズを確認する

Kyung-Hee Choi, Willi McFarland, Masahiro Kihara

アジア・太平洋地域ではおよそ740万人の人がHIVと共に生活していると推定されている。インド、タイ、カンボジア、ミャンマー、中国、ベトナム、およびインドネシアではIDU、性産業従事者、供血者、妊婦などの間で深刻な状況にまでHIVが広がっていることが報道や論文で示されている。しかし、MSM(Men who have sex with men)に関する情報はほとんどみあたらない。アジアの多くの国では、HIVの流行初期にMSMのHIV症例が確認されていたにもかかわらずMSM集団における予防のニーズは無視されてきたか、認識されることがまったくない状況であった。本特集号では、アジア・太平洋地域のMSMにおけるHIV感染リスクに関する8つの論文を掲載している。

Colbyらは、ベトナムではセンチネルサーベイランスがMSMを対象に行われていないこと、MSMの間でHIV感染が増大しつつある状況にもかかわらずほとんど注目していないこと、MSMにおけるニーズを明らかにするためのHIV感染予防に関する研究が必要であることを述べ、また、Giraultらは、Cambodiaの状況について、プノンペンのMSMのHIV感染率が14.4%と高いことを報告し、彼らの性的パートナーを含めHIV流行を防止する活動が直ちに必要であると報告している。

最後の3つの論文は、オーストラリアとアメリカ合衆国のアジア系MSMにおけるHIV感染リスク行動に関連する心理学的要因、社会文化的要因について報告している。Maoらは、シドニーのアジア系MSMにおいては、個人主義-集産主義、セルフエフィカシー、およびゲイ・コミュニティへの帰属性などが性的な感染リスクに関連していることを示し、Wilsonらは、ニューヨークのアジア系MSMのHIV感染リスクレベルが、ホモフォビア、人種差別、反移民差別などの社会的差別への対応によって異なると報告している。

アジア地域ではMSMにおいてもHIV感染は深刻な状況にある。本特集は、数少ないアジアのMSMに関する研究からHIV感染状況や予防のニーズを提示し、MSMにおけるHIV感染拡大を防止するために一層の努力を向ける必要があるとしている。  
(名古屋市立大学大学院看護学研究科 市川誠一)